

ふたなこ

止田卓史



for adult only

SAMURAI SPIRITS

まえがき

どうも、止田卓史です。
ということで、今回はナコルル本です。

ナコルル本ということで、ママハハをマンコに突っ込んだり、熊の手をアナルに突っ込んだりするプレイを描こうかとも思いましたが、やめました。やめてよかったと思います。

初代サムライスピリッツが出てからすでに十数年、ほぼ毎年のように新作が出ているわけですが、とりあえず思うのは「全然待じゃ無え！」ということです。まあ、どっちにしても最近はやセセン自体あんまり行っていませんが。絶賛引きこもり中です。武士は食わねど高楊枝。…違いますね。

やはりやセセンくらいは行っておいたほうが良いのでしょうか。でも、最近の格ゲーの複雑な操作にはついていけないし、UFOキャッチャーは何千円使っても一向にこっちによってきませんし、やセセンじゃなくてアミューズメントパークらしいですし、不良にカツアゲされるのも怖いです。やっぱりゲームはフリーセルとソリティアで十分です。はい。

というわけで、楽しんでいただければ幸いです。

2008.6.15/ 止田卓史

ふたなこ

「床に精液溜まりを作るほど
射精しておいて
まだ出し足りないのか？」

「なんともはしたない
肉棒だな」

「だが…精液を
もつと出さないと
苦しいんだらう？」

「そんな……」

「もういや……もう……
出したくない……」

「そんなに出したくないなら
栓をするしかないな」

「フ……」

「やめて……もう……っ
おちんちん……弄らないで……」

「ほら……踏みつけられて
うれしそうにびくびくと
脈動しているぞ？」

ギョウウウウッ

ビクン

ギョウウウウッ

「そうか……」

つぽっ

ハハハハ

がムがム

びる

びる

びる

びる

びる

びる

「あ……やだ……」

「ひいっ……」

ハハハハ

びる

びる

「そ……そんなの
入るわけ……な……」

「本当は旦那様以外にこんなこととしないのですが」

「や…あつ」

「はあ…はあ…」

「うあつあ…ダメ…動かさないので…」

「また…出ちやう…」

「んっ…おちんちんちやんと洗ってますか？」

「精液のカス…澱みたいに溜まってて…」

「ん…はあ…」

「すっごく臭くなっていますよ」

「はあ…はあ…」

「どうぞ…何度でも射精なさってください」

「んっ…ちや…」

「んっ…ちや…」

「女の子として恥ずかしくないんですか？」

「それじゃ…今度はこつちで搾り取って差し上げますね」

「うふふ…またどんどん固く…大きくなっていますよ？」

「はあ…はあ…」

「んっ…おちんちんちやん…びくんびくんしていますよ？」

「ひうっ…おっぱい柔らかく…感じてすぎ…」

「ほら…おっぱいにずぶずぶ…入り込んできます…」

「んっ…ちや…」

「や…めて…リム…ルル……」

「し…姉妹で…っ
こんな……」

「どうしてダメなの？」

「気持ちよすぎて
バカになっちゃうから？」

「なっ…違…っ」

「そんなわけ…ない……」

「そう？ だって姉様
すごく気持ちよさそうだよ？」

あきや

「小ぶりだけど敏感な
おっぱいも…こんなに
ビクビクなってるし」

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク

「悪いのは…こんなもの生やして…
やらしい姉様でしょ？」

どき

どき

どき

どき

ちゅっ…

「期待にちんぽ
おっただてながら言っても
説得力ないよ」

「ね？ 一緒に気持ちよく
なるーよ…姉様」

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

「おちんぽお…っ
もっとおちんぽ虐めてえ…っ」

「すかっり素直に
なりましたね…っ」

はぁぁ…っ

「それじゃお望みどおり
たっぷり虐めてあげようか」

んっ…はぁ…っ

おちんぽっ！

んっ…っ

おん…っ

「よかったね
姉様♡」

「みーんな姉様の
おちんぽが大好きだって♡」

おちんぽっ！

おちんぽっ！

んっ…っ

はぁ…はぁ…はぁ…っ

「んはあっ…うれしいですっ
私のいやらしいおちんぽ…っ
いっぱいかわいがってください…っ♡」

れろよ…

「おん…っ

んぽおんぽおんぽっ！」

んっ…っ

はぁ…はぁ…っ

はぁ…っ

んっ…

はぁ…っ

奥 付

著：止田卓史
発行：あしたから頑張る
発行日：2008.6.15
印刷：サンライズ様

ホームページアドレス
<http://www.blu.m-net.ne.jp/~ashibaru/>

メールアドレス
ashibaru@blu.m-net.ne.jp

あしたから頑張る

2008.6.15